

コペルニク全集の刊行計畫など

戦時下のドイツに於ては世界的に有名な同國の天文學者コペルニク的全集刊行への準備が成つた。

“コペルニク全集”刊行は、元より今日が初めてである。この包蔵する所は、著作全部、手記、手紙等で、原文及びドイツ譯である。

コペルニクの最も重大な作品「天體回轉論」には彼の原稿の複寫版もついてゐる。尙全集中にはコペルニクの生涯及びその學的生活に關する出所の確かな報告一切をも載せてゐる他、コペルニクに關する記録一切をも、その傳記の部に入れてゐるのである。更に、全集の最後を飾るものに、極めて廣汎な、而も新しいコペルニク傳がある。全集編纂に當つては天文學方面の専門家或はコペルニク研究家を總動員したものである。尙、出版所はエル・オルデンブルグ書店（ミュンヘン及ベルリン）となつてゐる。（獨逸總領事館よりの來信、六月9日）

尙、我が國でも、山本一清博士は目下このコペルニクの“天體回轉論”を邦譯してゐる。年末に東京恒星社から出版される筈である。

かうして、東西相期せずしてコペルニクの著書が出版される氣運にあるのは、實は來年（1943年）がコペルニクの死後正に400年に相當するからである。コペルニクは其の死床に於いて大著“天體回轉論”の初版製本を受け取つたのであつた。故に、來年は此の大著出版の400年目にも當る。天動説を葬つて、地動説を打ち立てたこの著が、新裝を以つて同盟兩國の讀書界に現はれるとき、世界は亦、英米の跳梁した舊時代が葬られて、樞軸國家の興隆する新秩序の時代に入らんとするもの、奇縁といふべきである。

因みに、コペルニクに關する記事は本誌“天界”の創刊以來澤山現はれてゐるが、其の中でも主なものは下記の通りである。讀者は是非これ等の記事を再讀しておかれるべきであると思ふ。

天界30號 E. S. キング、コペルニクスの記念

附録別冊“星”4號 } アルフレド・ノイエス（詩）コペルニク
天界117號

- 〃 125 號 コペルニクの原著出版について(雜報と寫眞)
- 〃 221 號 ドイツでコペルニク祭(雜報)
- 〃 230 號 コペルニクの言葉(大著總論の譯文)
- 〃 234 號 コペルニク時代の天文思想斷片(雜報)
- 〃 236 號 コペルニク紀念像の銘文(雜報)